

# 『ミュージアムDX実践ガイド』の活用法

～「これから取り組む現場」にとって必要なこと～

早稲田システム開発株式会社 代表取締役 内田剛史



## 自己紹介

どちらも  
もうない...

こっちは  
大丈夫



平成4年創業以来、  
博物館専業

I.B.MUSEUM SaaS  
(博物館向けクラウド)

導入施設はまもなく  
700館に到達

## 内田剛史（うちだたけし）

昭和41年6月 兵庫県西宮市生まれ

甲子園球場に最も近い西宮東高校から

当時箕面の山奥にあった

大阪外国語大学イスパニア語学科を卒業

第一勧業銀行（現・みずほ銀行）に14年勤務

平成16年に早稲田システム開発株式会社代表に。

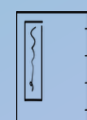
就任後20年と少し。

**私が今日ここにいる理由**

小規模館を中心に毎年200館近くを訪問。

学芸員にも  
コンピュータにも  
縁のない人生

# 本日の話



1

The Reality of Small Museums

## **「DXどころではない」現場の話**

法律も変わった。環境も変わった。それはわかるけれど。

2

The “switch” that activates the challenge

## **チャレンジを起動する二つの「スイッチ」。**

厳しい環境の中で、「よし！」と思ったきっかけを振り返る。

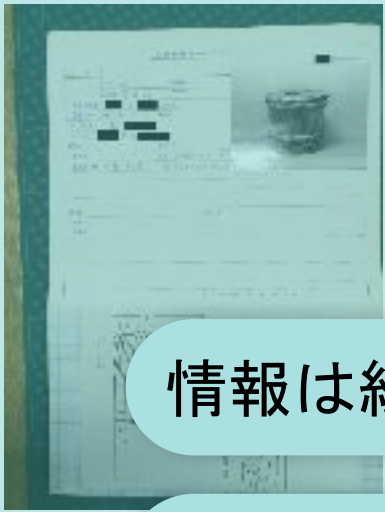
3

Beyond the role of the “Practical Guide”

## **「DX実践ガイド」の役割の先に。**

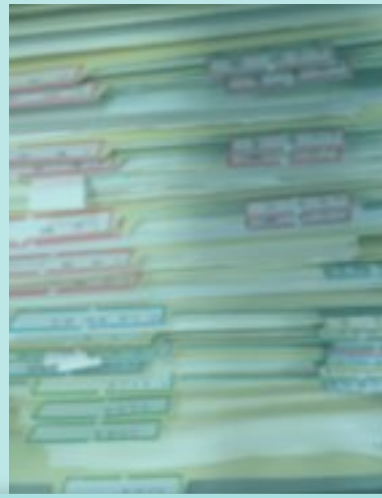
初めて取り組む人の「安心材料」として、求められる変化。

# 1. 「DXどころではない」現場の話



## 目録

情報は紙のカード



## 資料



台帳・目録と資料が一致していない

受入時の起案文書に添付された表だけが頼り

目録が全くない

起案文書は年度別にファイル

収蔵庫が未整理でどこに何があるか不明

受入年度にあたりを付けられないと探せない

最近は、担当が個人としてExcelでリストを作っている館が多い（肌感覚）

今いる人がサボってるわけではないけど、どうやって仕事してるんだろう？



現場職員は全員、  
期間3～5年の  
非正規職員



自分の代では  
終わらないから  
着手しない。

在任中は手を出さず、  
将来にゆだねる。



**無理のないことです。**

数万点の資料を所蔵、学芸員数人の某館

台帳・目録と資料が一致していない

**一人の若手が意を決して開始**



1万点以上の現物  
確認と目録作成を  
終えるも、任期ま  
であと3カ月

**後任の人、続きをやってくれる？**

今いる人がサボってるわけではないけど、どうやって仕事してるんだろう？

こんなときには。

- 一部でも公開する。
- 毎年少しずつ追加公開することを、館として対外的に公表する。
- 複数分野、複数の担当がいる場合、画像や解説付きで1分野年●点、ひとり年●点とルール化。
- 一部公開したデータを誰かが利活用する道筋を付けておく（「利用者の期待」をエンジンにする）。

**DX実践ガイドを  
後任の人の手元に。**



数万点の資料を所蔵、学芸員数人の某館

台帳・目録と資料が一致していない

**一人の若手が意を決して開始**



1万点以上の現物  
確認と目録作成を  
終えるも、任期ま  
であと3カ月

**後任の人、続きをやってくれる？**



## トップ

資料情報のデジタル化を歴代、先送りしてきたが、私の代で実施したい。勉強会をお願いします。

1万点の資料を所蔵、学芸員2人の某館

目録が全くない



勉強会終了後

## 現場の若手

僕は難しいと思っています。





### 現場の若手

モノに当たりながらなので、  
1日10点が限度。万単位なん  
て無理に決まっていますよ...

1万点の資料を所蔵、学芸員2人の某館

目録が全くない

わたし

そりゃ  
そうだ



「コツコツ作戦」も  
DX実践ガイドに。

ひとり学芸員でも頑張る

予算却下

子育てとの両立

在宅介護が始まる

ちゃんとしたシステムを入れたい

Excelでリスト作り

公開や画像管理を考えるとExcelだけでは無理

じゃあOmekaとか勉強する？

それは無理...

それでも、ひとり学芸員

結局Excelのまま



こんなときには。

- Excelのまま、いまできる範囲で大丈夫。無理しないで。
- ただ、将来に備えてデータベースとして扱いやすいExcelとしておくことが重要。
- セルを結合しない、人物、日付や寸法などの表記ゆれを防ぐ...など。

そういう情報も  
DX実践ガイドに。



子育てとの両立



在宅介護が始まる



それでも、ひとり学芸員

結局Excelのまま

とても極端な例だとは思いますが。

ひとり学芸員でも頑張る



子育てとの両立



在宅介護が始まる

こういう状態で担当の企画展も抱えていては

デジタルアーカイブについて、  
本格的な作業だけでなく、  
そのための情報収集すら難しい  
と思います。必要なのは・・・

いまできる最低限のことは何か。  
将来環境が変わったときのため  
に何をどう準備すればよいか。  
・・・という情報。



とても極端な例だとは思いますが。

ひとり学芸員でも頑張る



子育てが始まる



在宅介護が始まる

こういう状態で担当の企画展も抱えていては

そういう情報も  
DX実践ガイドに。



**あります！**

いまできる最低限のことは何か。  
将来環境が変わったときのため  
に何をどう準備すればよいか。  
・・・という情報。

私が思うDXガイドの課題と役割

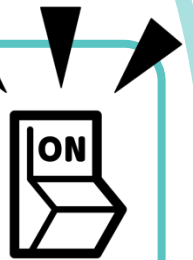
**手っ取り早く勘所をつかむことができる手引書。**

最近気づいたもう一つの役割

みなさん、やらないといけないと思ってはいる。

あとは背中を押すだけ。ガイドはのための・・・

**スイッチ**



**そういう情報も  
DX実践ガイドに。**



**あります！**

いまできる最低限のことは何か。  
将来環境が変わったときのため  
に何をどう準備すればよいか。  
・・・という情報。

私が思うDXガイドの課題と役割

**手っ取り早く勘所をつかむことができる手引書。**

最近気づいたもう一つの役割

みなさん、やらないといけないと思ってはいる。  
あとは背中を押すだけ。ガイドはそのため・・・

**スイッチ**



**なぜ「DX実践ガイド」がスイッチなのか？**

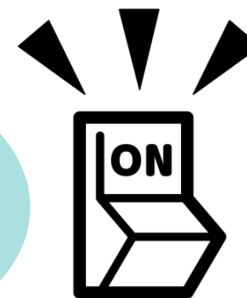
To Be Continued



## 2. チャレンジを起動する二つの「スイッチ」

最近気づいたもう一つの役割

スイッチ



最近嬉しかったメール  
打ち合わせができて  
デジタルアーカイブに取り組む

勇気

が出ました

ただ、ちょっと  
引っこかりました

デジタルアーカイブに  
はじめて取り組むって、  
そんなに勇気が要ることなの？

必要なのは  
勇気のスイッチ？

デジタルアーカイブに必要な「勇気」とは？



# デジタルアーカイブに必要な「勇気」とは？

## 勇気が出ない状況

予算は補助金で目途が立つかもしれない。人は大変だけではないわけではない。でも一歩踏み出せない。でも「勇気」が出ない...という人の状況って...

どうしていいかわからない

### やり方がわからない

経験がなく、知見がない。

### 先が見えない

膨大な量に圧倒され、いつ終わるか見通せず、暗い海を泳ぐような心境。

### やっていく自信がない

# 「勇気が出ました」というメールが届いたときの様子

## 勇気が出た状況

- 打ち合わせで疑問や不安を一問一答で解消。
- 初年度、2年目、3年目と、段階を踏んでやっていく計画の青写真を共有。

## やり方がわかった

こんなときどうする？はなんとなく見えた

## 先を見通すことができた

一気呵成にはできないけれど、少しずつでも前進している自分（自館）が想像できた

**勇気**

なんかやれそう、と思えた

# 着手する「勇気」の正体



DX実践ガイドが「スイッチ」のひとつに。

個人の感想（願望）です



**その他、私が見かけたDX実践ガイドの「活躍シーン」**

## ー 上長に説明する際の根拠資料に

上長は全く異なる部署から着任したばかり。行政マンなので説明にできれば公的な根拠資料が必要。文化庁の名前で発行されているので、「ここに書いている通り...」という説明に重宝します。





## ー 同僚にも共有し、みんなでレベルアップ

館あげてデジタルアーカイブに取り組むので、DX実践ガイドを同僚にも共有し、みんなで勉強することで作業品質の均質化を図りたいと思います。



## ー NPOでデジタルアーカイブに取り組むときの教材に

75歳以上の高齢者で構成されるNPOが地域の文化財のデジタルアーカイブに着手しようとしています。開始にあたり、みんなデジタルは得意でないので、印刷したものを配布して勉強会を実施しました。



# さらに役割を強化するには？

やり方 **ON**

=

情報



困ったら見るものが  
手元にある

勇気

安心感

スイッチの役割を  
果たしている



To Be Continued

### 3. 「DX実践ガイド」の役割の先に。

ここからは、もし「ミュージアムDX実践ガイド」を改訂、  
増補する機会があるとしたら...という「仮定の話」です。



# デジタルアーカイブに着手する「勇気」の正体

## 安心感

困ったら見るものが  
手元にある

●年後にはこのくらいは行けそう...  
というアバウトなプランが描ける

## 「DX実践ガイド」が「新規着手館」にさらに貢献するには

### 安心感の強化

- 「ギモン」の幅を広げる。でも深さは追及しない。
- 複数パターンのモデルプランも「ギモン」に。

### 安心感の拡散

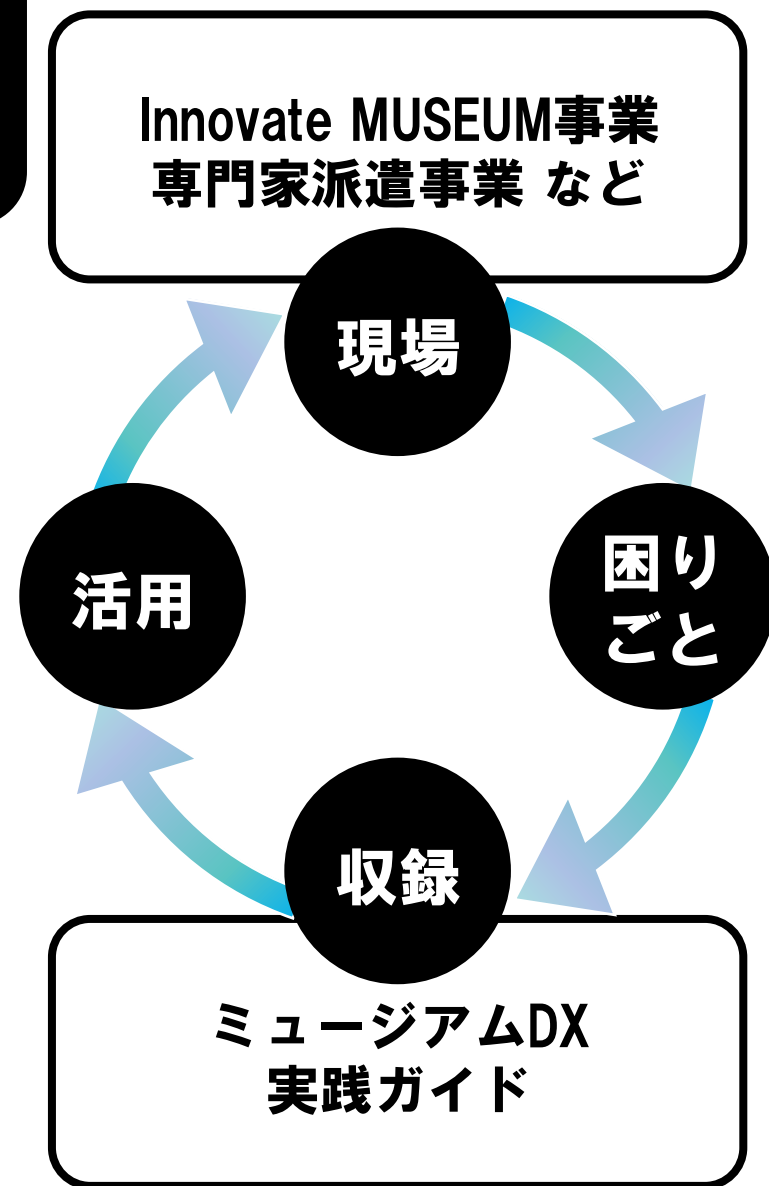
- 「DX実践ガイド」の認知の拡大を図るための方法として、リンク可能なWebサイト化。他媒体の記事からリンク。

## 安心感の強化

体系的に学ぶためのものではなく、現場で始めた人が困ったときに見るもの

「ギモン」の幅を広げる。  
でも深さは追及しない。

- 掲載するノウハウ情報の数を増やす。
- 対象は「始めたばかりの現場でつまづくこと」に限定する。専門的な説明は別のメディアに任せる。
- 新「ギモン」の入手ルートは現場でなければならない。どうやって現場から入手するか？が課題。
- 文化庁の関連事業を入手チャネルに。



## 安心感の強化

「この進め方なら、うちにもできるかも」を増やす

### 複数パターンのモデルプランも 「ギモン」に加える

- 架空の博物館のモデルプランを策定し、掲載する。
- モデルプランには、館の規模、開始前の状態、目標、目標到達までの課題、実施体制（人員）、実施期間などが異なるものをできるだけ多く用意し、「自館に近いパターン」が見つかりやすい「プラン集」とする。
- 実際の取材記事でも可。



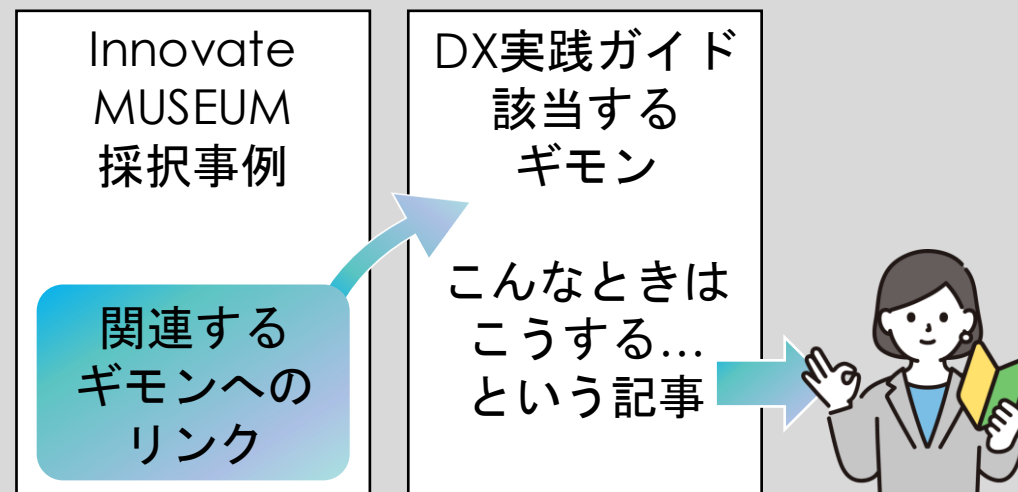
## 安心感の拡散

冊子でなく、記事ひとつひとつを「入り口」に。

### リンク可能なWebサイト化。 他媒体の記事からリンク。

- 「DX実践ガイド」を、1ギモン1記事のブログのようなWebサイトに。
- ギモンを検索しやすく。またスマホでも閲覧しやすくなる。
- 「ギモン入手チャネル」である各現場に関する別のWeb記事などからのリンクで、「DX実践ガイド」の参照機会、利用機会を増やす。

#### たとえば、こんな動線



デジタルアーカイブにこれから着手する人が「作業上」「手続き上」見るページに、DX実践ガイドへの動線を作っておくことで、触れる機会と知識を得る機会を提供する

「D X 実践ガイド」は

安心感

困ったら見るものが  
手元にある

●年後にはこのくらいは行けそう...  
というアバウトなプランが描ける

安心してデジタルアーカイブに取り組む  
ことができるようにするためのもの

安心感の強化

安心感の拡散

### 3. 「D X 実践ガイド」の役割の先に。

すべての博物館が安心して、勇気をもってデジタルアーカイブに取り組むことができるようになれば、「ミュージアムD X 実践ガイド」は要らなくなります。

そのときに必要なのは、より専門性の高い情報であるはずですから。

# ま と め

「ミュージアムDX実践ガイド」を  
執筆した私たちの役割は、  
「ミュージアムDX実践ガイド」が  
不要になるために努力すること…  
なのだと個人的には思っています。